

令和5年度  
やまなし地域課題解決型起業支援金  
【募集要領】

<募集期間>

令和5年4月28日（金）～6月7日（水）《当日書類必着》

【お問い合わせ】

「やまなし地域課題解決型起業支援金」事務局

一般社団法人まちのtoolbox

住所：〒402-0053 山梨県都留市上谷1-2-3

TEL：0554-67-9155 E-mail：bizcon@osusowake.life

※受付時間：9:00～17:00（土・日・祝を除く）

募集案内：

<https://bizcon.osusowake.life/news/yamanashi-startup-2023/>

～起業支援金制度全般についてはこちらへ～

山梨県産業労働部 スタートアップ・経営支援課 スタートアップ支援担当

住所：〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1

TEL：055-223-1544 E-mail：startup@pref.yamanashi.lg.jp



## 1 事業の目的

本事業は、地域の課題解決を目的としてイノベーションを伴う事業（新しい考え方や手法を取り入れて、地域に新たな価値を生み出す事業）を新たに起業する者及びSociety5.0関連事業等の付加価値の高い産業分野での事業承継又は第二創業する者（以下「起業者」という。）に、起業、事業承継又は第二創業に必要な経費の一部としてやまなし地域課題解決型起業支援金（以下「起業支援金」という。）を交付するとともに、事業の立ち上げに係る伴走支援等を行うことにより、事業の促進による地方創生を実現することを目的とする。

なお、地域の課題解決を目的とした社会的事業であることに加え、「リニアやまなしビジョン（令和2年3月策定）」に掲げる分野における事業、先進的かつ革新的な技術を活用した事業、アフターコロナを見据えた持続可能性の高い事業などを優先的に採択するものとする。

## 2 起業支援金の概要

### (1) 補助対象期間

交付決定日から令和5年12月31日（日）まで。

### (2) 補助率、補助限度額

補助率：1/2以内、補助限度額：2,000千円

### (3) 補助対象経費

人件費、店舗・事務所等賃借料、設備費、原材料費、賃借料、知的財産権等関連経費、謝金、旅費、外注費、委託費、マーケティング調査費、広報費 等

### (4) スケジュール（予定）

第1次募集

令和5年

4月28日～6月7日 1次公募（必要に応じて次回の公募を実施）

6月14日 1次審査（書類審査）

6月22日 2次審査（プレゼンテーション審査）

→ 交付決定 → 伴走支援開始

7月1日16時～19時 メンターマッチング&交付規定に関する説明会

第2次募集（1次募集で予算に満たなかった場合実施します）

6月23日～7月7日

7月12日 1次審査（書類審査）

7月20日 2次審査（プレゼンテーション審査）

→ 交付決定 → 伴走支援開始

8月1日16時～19時 メンターマッチング&交付規定に関する説明会

9月14日～17日 「Mt. Fujiイノベーションキャンプ2023」開催予定

10月～12月 生涯活躍のまちビジネスプランコンテスト

12月31日まで 事業完了

令和6年

1月10日まで 実績報告書提出

1月中～2月中旬 確定検査 → 起業支援金の支払い（精算払）

Mt. Fujiイノベーションキャンプ2023（詳細は、<https://www.y-startup.org>）、生涯活躍のまちビジネスプランコンテストなどの受講を推奨します。

### 3 補助対象者

起業支援金の補助対象となる者は、(A)、(B)の場合それぞれ以下に掲げる要件の全てを満たす者である。

#### (A) 新たに起業する場合

(1) 令和5年4月1日以降、補助事業期間完了日(令和5年12月31日)までの期間に個人事業の開業の届出、又は株式会社、合同会社、合名会社、合資会社、企業組合、協業組合、特定非営利法人等の設立を行い、その代表者となる者であること。(大企業及びみなし大企業は除く。)

※令和5年4月1日より前に開業の届出を行っている個人事業主及び既に設立されている法人等は対象外であるが、既存事業とは異なる新たな事業を行う個人として開業届を提出する、もしくは新たな法人等を設立する場合は対象となる。

- (2) 山梨県内に居住している者であること、又は補助事業期間完了日までに山梨県内に居住することを予定している者であること。
- (3) 個人事業の開業の届出、又は法人の登記を山梨県内で行う者であること。
- (4) 訴訟や法令遵守上の問題を抱える者でないこと。
- (5) 申請者、又は設立される法人の役員が、暴力団等の反社会的勢力又は反社会的勢力との関係を有する者ではないこと。
- (6) その他、起業支援金を交付することについて、山梨県が不相当と認める事由を抱える者でないこと。

#### (B) 事業承継又は第二創業をする場合

(1) 令和5年4月1日以降、補助事業期間完了日(令和5年12月31日)までの期間に、Society5.0関連事業等の付加価値の高い産業分野での、地域課題の解決に資する社会的事業を、事業承継又は第二創業により実施する個人事業主若しくは株式会社、合同会社、合名会社、合資会社、企業組合、協業組合、特定非営利法人等の代表者となる者であること。(大企業及びみなし大企業の法人は除く。)

- (2) 山梨県内に居住している者であること、又は補助事業期間完了日までに山梨県内に居住することを予定している者であること。
- (3) 本店若しくは支店を山梨県内に持ち、事業承継若しくは第二創業により新たに実施する事業を山梨県で行う者であること。
- (4) 訴訟や法令遵守上の問題を抱える者でないこと。
- (5) 申請者、又は設立される法人の役員が、暴力団等の反社会的勢力又は反社会的勢力との関係を有する者ではないこと。
- (6) その他、起業支援金を交付することについて、山梨県が不相当と認める事由を抱える者でないこと。

## 4 補助対象事業

起業支援金の補助対象となる事業は、(A)、(B)の場合それぞれに掲げる要件の全てを満たす事業である。

### (A) 新たに起業する場合

(1) 山梨県において、地域の課題(※1)の解決を目的として新たに起業する社会的事業(※2)であること。

※1) 本県の地域の課題としている分野は、次に掲げるものである。

地域活性化関連、まちづくりの推進、過疎地域活性化関連、買物弱者支援、地域交通支援、社会教育関連、子育て支援、環境関連、社会福祉関連、その他山梨県における地域の課題と認められるもの

※2) 社会的事業とは、次の①～③の全てに該当する事業のこと。

①地域社会が抱える課題の解決に資すること(社会性)

②提供するサービスの対価として得られる収益によって、自律的な事業の継続が可能であること(事業性)

③地域の課題に対し、当該地域における課題解決に資するサービスの供給が十分でないこと(必要性)

(2) 起業等をする者の生産性の向上・機会損失の解消及び顧客の利便性の向上につながるデジタル技術を活用していること(デジタル技術の活用)。

(3) 山梨県内で実施される事業であること。

(4) 令和5年4月1日以降、補助事業期間完了日までの期間に新たに起業する事業であること。

(5) 公序良俗に反する事業でないこと。

(6) 公的な資金の使途として社会通念上不適切である判断される事業(風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律(昭和23年法律第121号)第2条において規定する風俗営業等)でないこと。

※国、山梨県及び(公財)やまなし産業支援機構からの補助金等の対象事業は、起業支援金の対象としないので留意すること。

### (B) 事業承継又は第二創業をする場合

(1) 山梨県において、地域の課題(※1)の解決を目的としてSociety5.0関連事業等の付加価値の高い産業分野での事業承継又は第二創業により事業を実施する社会的事業(※2)であること。

※1) 本県の地域の課題としている分野は、次に掲げるものである。

地域活性化関連、まちづくりの推進、過疎地域活性化関連、買物弱者支援、地域交通支援、社会教育関連、子育て支援、環境関連、社会福祉関連、その他山梨県における地域の課題と認められるもの

※2) 社会的事業とは、次の①～③の全てに該当する事業のこと。

①地域社会が抱える課題の解決に資すること(社会性)

②提供するサービスの対価として得られる収益によって、自律的な事業の継続が可能であること(事業性)

③地域の課題に対し、当該地域における課題解決に資するサービスの供給が十分でないこと(必要性)

(2) 起業等をする者の生産性の向上・機会損失の解消及び顧客の利便性の向上につながるデジタル技術を活用していること(デジタル技術の活用)。

(3) 山梨県内で実施される事業であること。

(4) 令和5年4月1日以降、補助事業期間完了日までの期間に事業承継又は第二創業を経て新たに実施する事業であること。

(5) 公序良俗に反する事業でないこと。

(6) 公的な資金の使途として社会通念上不適切である判断される事業（風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第121号）第2条において規定する風俗営業等）でないこと。

※国、山梨県及び(公財)やまなし産業支援機構からの補助金等の対象事業は、起業支援金の対象としないので留意すること。

(7) 以下の「事業承継」又は「第二創業」のいずれかに合致するものであること。

	事業内容
「事業承継」	代表者の交代を伴い、新たな事業（※）へ取り組む場合
「第二創業」	同一法人又は個人が、既存事業とは異なる新たな事業（※）へ取り組む場合

※新たな事業は、日本標準産業分類の小分類において、既存事業と新たな事業がそれぞれ異なった業種（小分類）であることが必要。

## 5 補助対象経費等

起業支援金の補助対象となる経費は、補助事業に必要な経費であって次表に掲げる経費のうち、次の①～③の全てに該当する経費である。

①使用目的が本事業の遂行に必要なものと明確に特定できる経費

②交付決定日以降の契約・発注により発生した経費

※ただし、人件費、店舗等賃借料、設備等賃借料については、交付決定日より前の契約であっても、交付決定日以降に支払う補助事業期間分の費用は対象となる。

③証拠書類等によって金額・支払等が確認できる経費

<表>

区分	補助対象経費	補助率	補助限度額
人件費	人件費 ※ただし、交付決定を受けた事業に直接従事する従業員に対して支払う給与・賃金に限り、代表者や役員等の人件費を除く	1 / 2 以内	2,000千円
事業費	店舗・事務所等賃借料、設備費、原材料費、賃借料、知的財産権等関連経費、謝金、旅費、外注費、委託費、マーケティング調査費、広報費、その他の経費（代表理事が起業に必要な経費として認める経費）		

※ただし、補助金の額に千円未満の端数が生じるときはその額を切り捨てる。

※消費税及び地方消費税は補助対象外

## 6 応募手続

### (1) 募集期間

令和5年4月28日（金）～6月7日（水）当日書類必着

※受付時間：9:00～17:00（土・日・祝を除く）

### (2) 提出先（問い合わせ先）

〒402-0053 山梨県都留市上谷1-2-3

一般社団法人一般社団法人まちのtoolbox内

「やまなし地域課題解決型起業支援金」事務局 あて

TEL：0554-67-9155

E-mail：bizcon@osusowake.life

### (3) 提出書類

①交付申請書（様式第1号）

②事業計画書（別紙1-(1)）

③反社会的勢力でないことの誓約書（別紙1-(2)）

④居住地に関する誓約書（別紙1-(3)）

⑤住民票（スキャンデータ可）（※）

⑥提出書類チェックシート（別紙2）

⑦事業関係添付書類（スキャンデータ可）（該当するものすべてを添付）

(1)すでに個人事業主として開業済みの方

→ 税務署に提出した開業届の写し

(2)すでに法人設立済みの方

→ 当該法人の履歴事項全部証明書（※）

(3)起業支援金を申請する法人以外の法人の役員に就任している方

→ 当該法人の履歴事項全部証明書（※）

（※）申請日から起算して3ヶ月以内に発行されたもの

### (4) 提出方法

・書類はメールもしくは郵送にて提出。

※郵送する場合は、封筒表面に「やまなし地域課題解決型起業支援金」と朱書きするとともに、簡易書留や特定記録など配達されたことが確認できる方法により送付すること。

(5) 応募上の注意事項

- ・ 提出された申請書類や添付書類等は一切返却しないこと。
- ・ 申請に要する費用は応募者が負担すること。

※応募書類の記入漏れや添付書類の不備等により不採択となる場合があるが、募集期間経過後の書類の訂正・差し替え、追加提出等には一切応じられないので、十分に注意すること。

## 7 審査方法

申請書類及び審査会でのプレゼンテーション等をもとに内容を審査し、その結果に基づき採択事業を決定する。

### (1) 一次審査（書類審査）

事業計画書等の提出された書類をもとに審査する。

### (2) 二次審査（プレゼンテーション審査）

一次審査を通過した者について、審査会での申請者本人によるプレゼンテーション（質疑応答を含む）審査を実施する。

令和5年6月22日にオンラインにて実施予定。

### (3) 留意事項

○審査に当たっての主な着眼点については次のとおり。

- (1) 社会性（地域が抱える課題の解決に資すること）
- (2) 事業性（提供するサービスの対価として得られる収益によって、自律的な事業の継続が可能であること）
- (3) 必要性（地域の課題に対して、当該地域における課題解決に資するサービスの供給が十分でないこと）
- (4) 新規性・独自性
- (5) 継続性・成長性
- (6) 実現性・計画性
- (7) 経営者としての資質

※審査に当たって、次のア～エに該当する者は別途加点措置を行うものとする。

ア リニアやまなしビジョン（令和2年3月策定）に掲げる“地域特性を活かしたテストベッド分野(\*)”における事業を行う者

\*クリーンエネルギー、ライフサイエンス、次世代モビリティ、無人配送、スマート農業、自然環境保護・野生鳥獣管理、陸上養殖

イ 次の①～⑩に掲げる先進的かつ革新的な技術を活用した事業を行う者

①AI、②IoT、③ビッグデータ解析、④ロボット、⑤VR、⑥AR、  
⑦ドローン、⑧3Dプリンティング、⑨燃料電池、⑩ブロックチェーン

ウ アフターコロナを見据えた持続可能性が高い事業を行う者

エ 本県での起業に当たり他都道府県からの移住を伴う者

○審査結果に関する問い合わせには、一切応じられないこと。

## 8 採択結果

採択結果については、事務局から応募者全員に対して書面で通知する。

なお、採択された事業については、事業者、事業テーマ、事業計画の概要などを事務局や山梨県のホームページにて公表する場合がある。

## 9 交付決定

採択決定後、事務局が事業や経費の内容を精査の上、起業支援金の交付額を正式に決定し、交付決定通知書により通知する。なお、内容の精査により交付決定額が交付申請額から減額される場合があるので留意すること。

また、交付決定額は、補助限度額を明示するものであり、支払額を約束するものではないので留意すること。

## 10 実績報告・起業支援金の支払い

補助事業が完了した日から30日以内、又は令和6年1月10日（水）までに、実績報告書を提出すること。

事務局が提出された実績報告書に基づいて確定検査を行い、事業実施の状況や帳簿・支出の証拠書類等の確認を行った上で、起業支援金の額を確定する。

その後、事務局あて提出された請求書に基づき、起業支援金を2月中旬まで（予定）に交付する。（※精算払い）

## 1 1 交付決定後の注意事項

### (1) 補助事業の事業内容の変更等

交付決定後、事業計画を変更しようとする場合、もしくは事業を休止又は廃止しようとする場合には、事前に事務局の承認を受けなければならないこと。

また、補助対象経費の人件費・事業費の区分において、それぞれ20%を超える金額を変更しようとする場合には、事前に事務局の承認を受けなければならないこと。

### (2) 事業遂行状況の確認・報告

補助事業の実施期間中は事務局が事業の遂行状況を適宜確認するが、事務局から提出を求められた場合には、事業遂行状況報告書を提出しなければならないこと。

### (3) 事業化状況の報告

補助事業が完了した日の属する年度の終了後5年間は、毎年4月末日までに、補助事業に係る直近会計年度の事業化状況報告書を山梨県へ提出しなければならないこと。

### (4) 現地調査・実地検査

補助事業の実施期間中並びに補助事業完了後5年間は、事務局又は山梨県が必要であると判断した場合に現地調査に入ることがあるが、その際には事務所・店舗等関係箇所の立ち入りや帳簿・証拠書類等の確認・検査に協力しなければならないこと。

なお、補助事業終了後、会計検査院等が実地検査に入ることがあるが、この検査により補助金の返還命令等の指示が出された場合は、これに従わなければならないこと。

### (5) 補助事業の経理

補助事業に係る経理について、帳簿や支出の根拠となる証拠書類については、補助事業が完了した日の属する年度の終了後5年間は、保管しなければならないこと。

### (6) 取得財産の管理

補助事業により取得し又は効用が増加した財産については、善良なる管理者の注意を持って適切に管理を行うとともに、取得価額が1件当たり50万円以上(税抜)の取得財産については、補助事業終了後も一定期間においてその処分等について山梨県の承認を受けなければならないこと。また、処分等に伴い収入があった場合には、その収入の全部又は一部の納付を求められることがあること。

以上